第１日目

クリップ追加

2008/9/11(木) 午後 6:12　無題　練習用

0

写真：上より、結団式、成田にて、カンパーイ

１．8月25日（月）AM8時：成田空港第１ターミナルＣ－2号室に集合（結団式）

昨日の、第１回目のロゴセラピスト講演会の疲れも見せず、K.K.先生をはじめ、総勢21名が結団式に集合しました（T.K.さん、M.M.さんは、26日に現地で集合です）。

K.K.先生から旅行中の目的や、この旅行がそれぞれの参加者にとってよい出会いの場になり、一人ひとりにとって意味あるものになることを希望しているとの挨拶がありました。そして、「ヨーロッパの人はあまり大声でお話をしない習慣がありので、レストランの中などではあまり大声で話をしないように」という厳しい注意事項が言い渡されました（いったい誰に向かっておっしゃったのでしょうか・・・私？？）。

引き続き、M.A.さんからの研修の部屋割りの説明、スケジュールの確認、連絡先の確認後、アイネストラベルサービスのNさん（彼はM.A.さんの同級生ということで、出発に際してとても配慮頂きました。感謝、感謝！）からの空港手続きの細かい、連絡等を受けました。

２．AM1:55　OS052便に乗って、定刻に成田を出発しました。
①　ほぼ満員状態の機内に乗り、大空に向かって21人が高い次元へととびたちました。まさしく心身共に精神次元への超越への旅となりそうです。機内に乗った途端、ウィーンやプラハのガイドブックを広げ、これから行く場所の予習をはじめる人や、さっそく臨席の人達との交流をはじめている人など、みなさんまじめでした。

②　そのうち、冷たいお飲物のサービスがワインや、ビール、お茶、ジュースのサービスを受けていました。Hさん、Fさん、Kさんは早々とビールとワインをお飲みになり、機内食がはじまる頃には、顔が真っ赤になっていました。斜め後ろで彼らを観察させていただいた私は、機内食が始まる頃には首まで真っ赤になっていることまで事細かに見ることができました。この先どうなることやら・・・

③　機内食も終わり、お腹もいっぱいになってみなさんは、私も含めまぶたが重くなってきたようで、眠りはじめるロゴセラピストの卵達でありました。

④　約5時間経過した頃、少しずつ機内にも飽き始め、ビデオを見る人、音楽を聴く人、機内体操をする人等々、はじめの緊張もとれ、その人らしさが少しずつ見られはじめたようでした。人間の行動って、おもしろいですね～。

⑤　軽食の機内食には、驚くなかれ「チキンラーメン」が出ました。チキンラーメンを選ぶ人が多かったですね。私のデータによると、一番若い人と、ややお年を召された方はおにぎりだったような・・・。

⑥　セカンドサービスに、マンゴームースとチキンシーザーサラダが出ました。となりに座っていたMさんは「このマンゴープリンおいしい！！」とすべての機内食に感動し、その感動のことばのおかげで、私もすべての機内食をとてもおいしくいただく事ができました。ありがとう！！Mさん。

３．PM 3時05分（日本時間22時）　：　ウィーン到着

みなさんの「早くウィーンに着きたい！」という気持ちが、飛行機のスピードを速めたのでしょうか、それとも、誰か飛行機の中で自分の翼をバタバタさせていたのでしょうか？驚くなかれ、予定の時間より1時間ほど早くウィーンに到着しました。約11時間の飛行機の旅の疲れも感じないくらい、ロゴセラピストの卵達は無事、元気にウィーンの地を踏むことができました。

早速、デラックスなバスに乗り、約15分でオーストリア・トレンド・ホテル・アナナスにつきました。
気温は約25℃。夕方にもかかわらず日差しはやや強かったですが、とても過ごしやすい気候でした。ホテルに着いた時間は、日本時間でPM11時半を回っていると分かると、やはり皆さん疲れが顔に出ていました

（K.K.先生のアドバイスでは、日本時間を忘れなければいけないそうです）。しかし、さすがロゴセラピストの卵達です。約半数は、30分後、ホテルの玄関に集合し、赤坂さんを先頭に地下鉄に乗り込み、シュテファン寺院に行きました。とても崇高な寺院で、圧巻でした。そしてその道中も、「ヨーロッパに来たんだな～」と思わせるすてきな景色で、オペラ座もとても歴史を感じさせるすてきな建物でした。もちろん観光の帰りでも、現地ではまだ夜の7時なので（日本時間ではすでに翌日のAM1時を回っていましたが）、夕食ということでウィンナー・シュニッツエルをつまみに乾杯しました。S先生も元気でしょ！！

この夜は、みなさん爆睡状態だったことでしょう。明日は、フランクルのお墓参りと、ルーカス先生に会える日です。なんだかワクワクです。では、お休みなさーい。

（追伸）：　T.M.とR.T.は、時差の関係で、翌日の朝4時に目が覚めてしまいましたが、「せっかく起きたのだからレポートを書いてしまおう」ということで、さっそくこのレポートの原案を書きました。時差もこのように楽しめば、いいものです。逆説志向が役に立ちました。（R.M.記）